



中部電力

資料 7

第14回 G X 実行会議

令和6年12月26日

中部電力株式会社
代表取締役会長
勝野 哲

GX2040ビジョン(案)について（１）

<エネルギー>

エネルギーの安定供給を実現するための「電力システムの再構築」

- ◆ 脱炭素と経済成長を同時達成していくためには、エネルギーの安定供給確保が一丁目一番地。
- ◆ 発送電分離という電力システムの中で安定供給メカニズムを確保するためには、
 - ・ 将来必要となる脱炭素電源や系統設備への投資に対する事業環境整備（ファイナンスに係る措置を含む）
 - ・ 小売電気事業者に供給力確保の遵守を促す仕組みの構築
 - ・ 短期のみならず中長期の計画断面での供給力の確実な確保や実需給断面での最適な需給運用が可能となる実効性のある市場への変容が必要不可欠。

<エネルギー>

「エネルギー及び燃料・設備生産の自給率向上（国産化の推進）」

- ◆ 2050年ネットゼロ実現に向けて、資源に乏しい我が国において、エネルギーの安定供給と脱炭素化を両立させていくことは、決して簡単な道のりではない。
- ◆ その道のりには、国際情勢や需要・経済の動向、技術革新の進捗など、さまざまな不確実性やリスク、課題が存在。
- ◆ こうした不確実性等に対して、柔軟かつ適切に対応し、目標・目的を着実に達成していくためには、特定の電源や燃料源に過度に依存せず、あらゆる選択肢、あらゆる低・脱炭素電源の活用を追求していくことが重要。
- ◆ 特に、エネルギー安全保障や国富の流出低減、国内経済成長の観点からは、再生可能エネルギーや原子力発電などの他国依存度の低い脱炭素エネルギーを最大限活用すること、あわせて、水素・アンモニアなどの次世代燃料や発電設備生産に係る国内サプライチェーンを構築し、自給率を向上（国産化を推進）させていくことが必要不可欠。

<GX産業構造>

「次世代技術開発・イノベーションの創出と早期のビジネス化」

- ◆ GX成功の鍵は、革新的な次世代技術の開発・イノベーションの創出と早期のビジネス化。
- ◆ エネルギーで言えば、供給側では、高温ガス炉、高速炉、SMRや核融合といった次世代革新炉、ペロブスカイト太陽電池、浮体式洋上風力、クローズドループや超臨界地熱発電、水素などの次世代エネルギー・燃料技術、需要側では、パワー半導体や光電融合を始めとした省エネ技術など、我が国には世界をリードしていける技術のポテンシャルが多く存在。
- ◆ こうした技術のポテンシャルを最大限活用していくためには、大企業からの積極的なカーブアウトに加えて、プラットフォームを構築・整備し、様々な技術を集合・融合・スケール化させながら社会実装化を推進していくことが必要。
- ◆ さらに、早期にビジネス化までつなげ、国際規格・国際標準を獲得しつつ、国際競争力を高めていくことが重要。

<GX産業立地>

地域GX推進のための「地域分散型電力システムの整備」

- ◆ GXやDXの進展による電力需要の増加が見込まれる中、他国では自国優先の風潮が高まっており、経済・エネルギー安全保障の観点でも、**脱炭素エネルギーの確保・活用とこれと一体的な産業構造・立地の変革・形成**は、我が国の産業全体の国際競争力や雇用構造を左右する重要課題。
- ◆ レジリエンスの強化や効率的・効果的な既存インフラの活用のためには、各地域の事情・状況に応じて**地域・自立分散型の供給システムも活用し、脱炭素電源・NW・需要の一体的な整備を進めていく**ことが重要であり、これを基盤として地域GXをさらに加速させ、地域経済活性化の好循環を生み出していくことが必要。
- ◆ こうした整備には、**立地地域の理解と協力が必要不可欠**。脱炭素電源や産業の立地・活用を**積極的に進める地域**に対して、重点的な支援やインフラ整備、立地・活用によって得られた成果の共有など、**インセンティブ措置**を講じ、**実効性のある仕組み**（規制・制度的措置）を構築していくことが重要。

GX2040ビジョン(案)について（５）

<世界の脱炭素化への貢献>

アジアにおけるGXへの貢献

- ◆ **東南アジア**の多くの国は火力発電に依存しており、脱炭素化や経済成長に向けては、我が国と共通の課題を抱えている。こうした国々に対しては、AZECなどの国際連携の枠組みを活用し、**我が国の優れた脱炭素技術を共有**することで、**日本を含めたアジア全体での現実的な脱炭素化と経済成長に貢献していく**という視点も重要。
- ◆ また、国際競争力を担保したGX製品・サービスの世界的な供給地点としての確固たるポジションを築いていくと同時に、**GX製品・サービスのアジア市場を開拓し、内需を超えて大規模な市場を創出・拡大**し、アジア全体の経済成長を支えていくことも必要。
- ◆ 今後、こうしたアジアに対するGXへの貢献の観点も踏まえ、**東南アジアの国々の状況や実情に応じて、必要な技術やサプライチェーンを共有**しながら、アジアにおける現実的な脱炭素に向けたトランジション実現において、**中心的役割を果たしていく**ことに期待。

GX2040ビジョン(案)について（6）

<GXに関する政策の実行状況の進捗と見直し>

ロードマップ・マイルストーン策定とモニタリングによる確認、不断のアップデート

- ◆ さまざまな不確実性やリスク、課題が存在する中で、技術動向や社会変化、刻々と変化する経済やエネルギーの状況等も考慮に入れつつ、GX2040ビジョンを実現していくうえでは、各領域・分野での方向性や対応に加え、それらを束ねた日本全体の脱炭素に向けたトランジションのロードマップ・マイルストーンを策定して明確化することが必要。
- ◆ また、GX予算事業については、採択審査に加え、予算執行状況のモニタリングが極めて重要。
- ◆ こうしたモニタリングを効率的・効果的に実施・活用し、GX投資や効果の進捗状況等を確認しながら、不断の検証を行い、戦略・政策については柔軟かつスピーディにアップデートしていくことが必要。

<最後に>

政策ツール総動員による支援のお願い

- ◆ 今後、国には、GX2040ビジョン実現に向けて、強いリーダーシップを発揮していただき、長期にわたる民間の力強い投資促進や技術開発の予見性を確保するため、政策の一貫性・継続性を確保しながら、予算、税制、規制緩和、民間の投資資金誘導、投資環境整備など、あらゆる政策ツールを総動員し、積極的に支援いただくことをお願いしたい。

G Xに対する国民理解の促進のお願い

- ◆ また、今後、GX2040ビジョンが国民が豊かさを実感できるような将来像・道筋として広く共有・認識され、理解されるよう、政府には積極的な情報発信と丁寧な説明をお願いしたい。